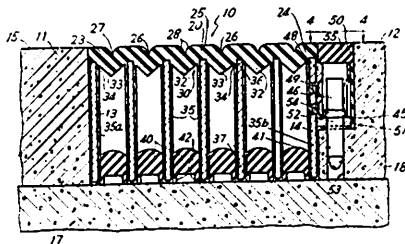


エキスパンション・ジョイント

特公 昭 35-17979

発明者 リンカー, W.R. 外 1 名

膨張目地の改良であって、コンクリート版 (11) (12) の端縁はまくら木材 (17) の上に支持され、このまくら木材上面の平滑面 (18) が膨張目地間げきの底面になっている。目地 (10) は間げきの開口をおおう可とう性の弾性ゴム母体 (20) からなり、母体 (20) は表面に一連の溝 (26) と内側面 (30) には、長手方向に一連の凹凸面 (32) を有しその波頭部 (33) は外面の溝 (26) の位置に対応している。波頭部 (33) 相互の間にある谷



部 (34) には母体 (20) に接して一連の垂直な金属板 (35) の上端がとりつけられ母体を支持している。支持金属板 (35) の下端には板によって分割された平行状態の弾性ゴムからなるスペーサー (40) が配置され、底面はリップまたは脚 (42) でまくら木材の上面 (18) 上に載置されている。膨張時間げきが減ずるとき表面 (18) において金属板 (35) が横方向に併進し、母体 (20) が路面上へ突出することが少ない。

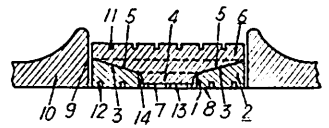
分割型レール用タイパッド

特公 昭 35-18603

発明者 清水 惣一郎

上面下央の透孔 (1) の縁から外周に至るにしたがって次第に高くなる斜面 (3) が形成されている弾性材料製下部パッド (2) 上に、透孔 (1) に嵌合する下向突出部 (4) を下面中央に有し、その周囲に斜面 (3) と適合する斜面 (5) を形成されている上部パッド (6) が載置されていて、上部パッド (6) 下面の突出部 (4) の底面 (7) は、下部パッドの下面 (8) よりも上方に位置しているようにしたタイパッドであって、上部パッド (6) に列車荷重が載荷された場合、まず上下パッドの周囲付近が弾性的に圧縮されると同時に下部パッド (2) と、上部パッド (6) の周囲は斜面 (3) (5) で接触しているので、下部パッドは大きさが拡がるように弾性的に外方に押し込まれるような力を受け、反対に上部パッドは中央部に押し縮められるような力を受けながら、両斜面間の摩擦抵抗に打勝って滑り作用が生じ、上部パッドは次第に下降してその突出部の底面 (7) がまくら木、またはその他の支持体の表面に

接触する。この状態からさらに荷重が増大すると上部パッドは中央部でも荷重を支持するようになり、支承力は急に増大する。突出部の底面が接触するまでを所望のバネ定数になるようにすれば、所定列車荷重を最適状態で弾性支持し過大荷重の場合は、パッドのほぼ全面で強力に抵抗しレールに安定性をもたせることができ、また斜面の角度を変更することによってバネ定数の調整ができる。

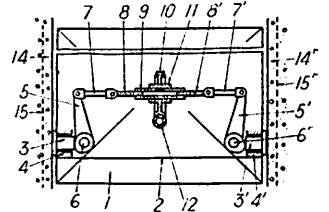


高圧ゲート振動消去装置

特公 昭 35-18627

発明者 国府田 静馬

高水圧ゲートを半開放流する場合に生ずる振動は、その出現する範囲も低水圧ゲートの比でなく、大きく必然的に消去するよう処置されなければならないが、この発明はゲート自体の特に振動の大きい下部横主桁に圧着装置を設けた振動消去装置に関するものである。高圧ゲート (1) の下部横主桁 (2) に圧着金物 (3) (3') を嵌装した受金 (4) (4') を左右相対して固定し、偏心圧着レバー (5) (5') の中心軸 (6) (6') も受金 (4) (4') で固定する。偏心圧着レバー (5) (5') の先端に引張棒 (7) (7') およびねじ棒 (8) (8') を連結する。ねじ棒 (8) (8') は左右逆ねじとし、ねじさや (9) 内にねじこまれている。ねじさや (9) はウォーム・ホイール (10) 内にキー (11) とともに嵌合されていて、電動機によって駆動されるホイール (10) の回転力はキー (11) により受ける左右に対してはホイール (10) 内をすべって少量の移動ができるようになっている。左右の圧着力に差のある場合ねじさや (9) がホイール (10) 内を圧着力の小さい方向にすべり平衡を保ち、自動的に調整しうるし、また任意の開度においてゲートをピヤー (14) (14') に圧着して固定する。



構造物のコンクリート防水工法

特公 昭 35-18623

発明者 庄 司 峰 雄

けい酸根を基剤とする防水液を混入したコンクリートを構造物の表面に打設し、その表面に同様の防水液を散布して、コンクリート中に防水液を浸透させ、展圧を行ない次に、コンクリートの表面を金網状部で叩打ちしコンクリート上層部の粗骨材を下部へ沈下させ、上層部に緻密なモルタル防水層を形成するようにしたコンクリート防水工法である。

(特許庁審査二部 荒木 達 雄)